

桐生が岡動物園・遊園地の園内施設拡充 並びに周遊観光施策の推進について（改定継続）

桐生が岡動物園は昭和28年の開園以来、子供たちはもとより大人にも愛され親しまれ、動物に接することによる命の大切さが自然に身に付くなど、情操教育の場にもなっておりま

した。
また、隣接する桐生が岡遊園地は、数々の大型遊器具・小型乗物を有し、その利用料金は最高でも200円と、大変リーズナブルな料金体系となっており、いずれの施設も桐生市内はもとより、広く関東エリアからも多くの方が来園される、桐生市を代表する観光スポットの一つとなっています。

市外からの更なる誘客を図るために、下記事項について要望いたします。

1. 開園以来数十年の年月が経過し、園内の遊器具や獣舎等の施設が老朽化していることから、ミニ蒸気機関車などの新たな遊器具の設置・獣舎の改築・新たな動物の購入等、園内施設の拡充を図るとともに、維持管理費プールの手段としての入場料有料化の検討。
2. 市外からの来園者が、桐生新町重要伝統的建造物群等の市内観光スポットを周遊したくなるような魅力ある観光施策の推進。
3. MAYUの「遊園地・動物園コース」の運行ルートに桐生駅発着を加えることによる市外からの来園者の利便性の向上。

桐生市からの回答

1 について

桐生が岡動物園につきましては、老朽化した獣舎等の施設改修や新たな動物の導入など事業にかかる財源の確保を含め検討してまいります。

なお、施設老朽化対策の一環として、今年度、桐生が岡動物園の顔である「南門」の長寿命化対策保全工事を実施いたします。

桐生が岡遊園地につきましては、ミニ蒸気機関車など小型乗り物の老朽化に伴う更新が必要と認識しております。遊器具については、整備を行うことで長寿命化を図るとともに更新費用の財源確保に努めてまいりたいと考えております。なお、今年度においては、「桐生市子ども基金」を活用し、メルヘンカップを新たな大型遊器具に入れ替えるとともに、新たなアトラクションを追加いたします。

有料化につきましては、桐生が岡公園の来園者が減少することに伴い遊園地の遊具利用料が減収となることが想定されるため、慎重に検討する必要があると考えております。こうしたことから、現在、ネーミングライツの実施や募金箱の設置、新たなバッテリーカーの購入など、継続した取組により財源確保に努めているところであります。

〔回答担当〕都市整備部公園緑地課公園管理係

2 について

桐生が岡動物園・遊園地は、市内はもとより市外・県外からも多くの来園客があり、本市を代表する観光スポットの一つであることから、同園に來られた市外・県外の観光客をまちなかにも誘導し、本市の魅力を楽しんでいただくための観光施策は大変重要であると考えております。

市では、低速電動コミュニティバス「MAYU」の運行コースとして「遊園地・動物園コース」と「重伝建コース」を設定し、遊園地・動物園への来園者が重伝建地区やまちなかへ訪れることができるようなルート設定を行って、まちなかへの誘導と観光客の利便性を図っております。また、MAYU車内においても掲示物やQRコードで観光情報発信を行うなど、市内観光スポットへ興味を持ってもらえるような取組を、今後も引き続き実施してまいりたいと考えております。

〔回答担当〕産業経済部観光交流課観光振興担当

3 について

現在、2つあるMAYUの運行コースのうち、「遊園地・動物園コース」は、桐生駅に加え今年度からは西桐生駅を運行ルートに追加して、鉄道でお越しになる観光客への利便性向上を図っているところです。また、桐生市観光情報センター「シルクル桐生」をハブ機能として運行ルート上に加えることで、もう一つの運行コースである「重伝建コース」との乗り換えができ、シルクル桐生を起点としたまちなかへの周遊促進と、来桐客の利便性向上を図っているところです。

今後もより利用していただけるような運行コースの工夫を行い、観光客の利便性向上を図っていきたいと考えております。

〔回答担当〕産業経済部観光交流課観光振興担当